

博士課程 1 年目を終えて

氏 名：畑山 真穂 2021 年度（10 期）

修学機関：メリーランド大学公共政策大学院 博士課程（公共政策）

University of Maryland, School of Public Policy, Doctor of Philosophy (PhD)

研究テーマ：貧困層へ雇用機会を創出する産業政策の検討

Industrial policy for job creation and poverty reduction

略 歴（はたやままほ）

世界銀行 雇用と社会保障局にてエコノミストとして勤務。2014 年 London School of Economics (LSE)にて修士号取得。卒業後、開発コンサルタント企業にて、モザンビーク農業開発や能力強化に係る日本 ODA 事業に従事。2017-2018 年には国連開発計画（UNDP）リベリア国事務所にて中小零細企業支援プロジェクトに従事。その後、イギリス研究機関 Institute of Development Studies にて研究員としての勤務を経て、2019 年より世界銀行にて勤務。勤務を継続しながら、今年度よりメリーランド大学公共政策大学院で博士課程を開始。

博士課程1年目

昨年 2022 年 9 月に博士課程に入学して、早くも 1 年目が過ぎました。今年は、博士課程の修了要件に向けたコースワークとして、統計・計量経済学を重点的に学び、今後博士研究を進める上での土台作りに励みました。また、博士論文で使用する予定であるインド国における世帯調査のデータの分析を進めました。この期間は、専門教員やティーチングアシスタントに分析方法やその初期結果を共有し、わからない点を質問し、研究アプローチを改善することができました。

また、アメリカの博士課程では、博士課程の 1 - 2 年目で学生が研究遂行に必要な基礎知識を十分持っているかを確認する試験を受けることがあります。私の在籍する課程にも、博士論文を執筆することに加えて、博士課程中に 5 つの試験に受かることが要件となっています。その

うちの一つが、ミクロ経済学の試験ですが、今年はその試験を受け、無事に合格することができました。



メリーランド大学 公共政策学科のキャンパス

現在の世界銀行での業務

前回の投稿にも記載した通り、博士課程と並行して、世界銀行で勤務をしています。雇用・社会保障局でエコノミストとして勤務しており、主に、労働市場規制・雇用政策に関する研究やマイクロデータを使った分析業務等に携わっています。今年は、週2日は世界銀行のオフィス、授業のある週3日は大学から働くという生活をしていました。フレキシブルなワークスタイルができる現在の職場環境に感謝しています。

世界銀行の業務では、いくつかの研究プロジェクトやレポートの執筆に携わりました。特に、“Jobs”というテーマのフラグシップレポートの執筆に大きく携わり、特に、企業と雇用創出に関するチャプターのデータ分析と執筆に関わりました。

多くの途上国には、正規もしくは生産性の高い雇用の機会が少なく、インフォーマル・セクターや零細企業や小企業の多くが雇用創出の役割を担うか、多くの方は自営業者として生計を立てています。本チャプターでは、生産性が高く労働環境の整った雇用機会の創出と所得の向上のための企業の役割に焦点を当てています。大規模で生産性の高い企業の形成と成長は、長期的な国の発展に伴う生産性、雇用、賃金の向上に不可欠です。特に、企業（組織化）は、分業、労働者のスキルの専門化、市場の拡大、テクノロジーの革新に大きな役割を担っています。これらは私の博士研究のテーマと大きく重なっており、この業務の中で関連するデータの分析や文献を理解することができました。

私が博士課程を始めた一番の動機は、より体系的に専門性と研究能力を高め、政策づくりに直接使われるような研究と政策助言に貢献したいと思ったためです。そのため、こうした世界銀行の業務では、政策づくりに使われるような研究に携われる機会があることは大変貴重であり、博士課程で習得したスキル・知識通じて、さらに良い仕事ができるようになりたいと思っています。



フラグシップレポートの分析結果を発表するワークショップ

この1年間支援していただいた **FASID** 様のおかげで、精神面でも安心して勉学と仕事に励むことができました。数少ない社会人学生を支援する本奨学金の機会に心から感謝しております。また、勤務をしながらの学業に関して、職場のマネージャーや同僚、家族、友人から理解とサポートを受けており、本当に感謝しています。実務者として研究者として途上国開発に貢献し、これまでのご支援を社会に還元したいです。